



第 1380 回例会報告

平成26年9月18日(木)晴

会長挨拶

会長 吉澤邦雄

里山を活かす

本日は中川博司ガバナーをお迎えしての例会です。中川ガバナーは伊那ロータリークラブ所属で、医薬品研究等を行う(株)イナリサーチの会長を務められておられます。後ほど卓話をいただきます。また、本日は、先日ご指導いただいた真道ガバナー補佐にもお越しいただいております。お二方には先程来、別室にて親しくお話しさせていただきました。有り難うございました。

さて先日も申しましたが今月は「新世代のための月間」であります。本日は少し視点を変えて”日本の行く末が心配”という話をしてみたいと思います

先日、テレビ番組で若い男性タレント数人が“毛虫”を見て悲鳴を上げ、逃げ回るシーンを見ました。これは毛虫だったからかもしれませんが、最近私の周りでも「最も嫌いなものは虫」「虫のいる野山には絶対行きたくない」と答え、昆虫に触ることすらできない若者が驚くほどいます。これは多分に彼らの親の影響を受けている訳で、私たちの世代と違い、幼少期に自然、特に昆虫と触れあう機会が少なかったことに起因しているのだと思います。

かつて日本を代表する著名な科学者の多くが子供の頃“昆虫少年”であったことをご存知でしょうか。昆虫に対する子供の好奇心は見て、触って初めて高められ、その生活史を知ることによって更に自然に対する探求心が湧いてくるのだと思います。自然の営みを知れば知るほどそれを愛おしみ、大切にしたいという気持ちも強くなってきます。

“絶滅”或は“絶滅危惧種”という言葉を知ることがあると思います。現在、生物種の推定値は約1000万種と言われてはいますが、まだ発見されていない種を含め、年間最大十数万種が消えて行っているという推定値もあります。そうなってしまった原因の多くは人間の活動、特に生息地の破壊によるものだといわれています。人間が生きていく以上、開発は仕方ないこととはいえ“医薬品を含めた衣食住”全てにおいて生物(動植物等)のお恩恵を被っていることを私たちは決して忘れてはいけません。

かつて里山といわれる雑木林には多くの昆虫を初めとした豊かな生物多様性がありました。我クラブの実施している広葉樹の森作り・里山整備と共に青少年に対して多様な生物と接する機会、好奇心を掻き立てる機会をもっと増やす必要があるのでないでしょうか。昨今、本当の自然との触れ合いが少なく、昆虫との接点の少ない若者の増加はとても心配です。

■出席報告

会員数	38名
出席対象	38名
出席者数	31名
出席率	81.6%
前回修正	89.5%

■ニコニコBOX

4名	6,000円
累計	110,000円
目標額	60万円
達成率	18.3%

■今週のことば

中川ガバナーようこそお越しくださいました。本日はご指導よろしくお願ひいたします。

吉澤邦雄、平山隆勇、渡邊良紀

明日誕生日です。皆様からお祝ひいただきましてとてもうれしかったです。宜しくお願ひします。

丸山美樹彦



◇幹事報告◇

【連絡事項】

地区大会出欠について本日が締め切りです

【受領文書】

諏訪 RC、岡谷 RC よりウィークリーが届きました

◇委員会報告◇

【国際奉仕委員会】

レターボックスに米山奨学会寄付とロータリー財団寄付の個人記録をお入れしておきました。

単位達成額をご寄付いただきますと受賞対象に達します。30周年のこの機会にぜひご協力をお願いいたします。

【30周年実行委員会】

諏訪湖RC復興支援旅行団の結成と実施計画をお届けします。追加参加を希望される方は至急ご連絡ください。

第 1380 回例会

ガバナー公式訪問例会

会長・幹事

本日は中川博司ガバナー、真道弘雄ガバナー補佐をお迎えし、ガバナー公式訪問例会が開催されました。中川ガバナーには、優しい言葉でユーモアを交えながら、含蓄深いロータリーへの提言とご指導をいただいたうえ原稿もお寄せいただきました。本当にありがとうございました

自己紹介を申し上げます。私は18歳まで名古屋で育ちましたが、その後70歳になる今日まで、その大半は長野県伊那市で暮らしており、29歳でイナリサーチという医薬品開発支援の会社を立ち上げて、現在は会長という立場で会社に関与し、ロータリー歴としては伊那RCに所属して30年近くになります。ロータリアンとしては誠に不熱心な会員ではありましたが、何故かガバナーの責務を負うことになってしまいました
1年間、どうぞ宜しくお

付き合いいただきますようお願い申し上げます。

さて、本年度のRI会長、ゲイリー・C. K. ホアン氏は、「ロータリーに輝きを」というRIテーマのもと、RI戦略計画のさらなる推進や会員増強、RI会長賞やロータリーデーの推進など、ロータリアン一人一人の活動努力によってロータリーが再び輝きを取り戻すよう強い決意を表明されています。それを受けて私は、「明日のために今こそ行動を」を地区の標語として掲げ、地区として行うべき7つの重点分野を地区プログラムに示しました。

これらは、クラブ会長へのミッションでもあり、行動のための指標です。したがって私は、この指標をもとに、常に「どうですか、前進していますか」と問いかけることとなります。



新会員に対する研修やクラブのIT化、クラブ間協働による奉仕活動の推進など（地区プログラムご参照）、通常の年度にはない新たなミッションもありますがいずれも極めて重要です。1年で出来ることはほんの限られた範囲ですが、それを積み重ねることで、ロータリーの確かな前進が見えてきます。

「超私の奉仕」はもっとも核心的なロータリアンのマインドです。皆様には大変ご苦勞をおかけしますが、あなたもロータリーの歴史の一歩を標す存在となってくださるよう切にお願い申し上げます



2600地区ガバナー公式訪問例会 2014年9月18日
中川博司ガバナー・真道弘雄ガバナー補佐をお迎えして

